

第1回 第9期高砂市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会

議事録

日時：令和5年7月6日（木）午後3時15分～

場所：高砂市役所庁舎5階大会議室

次第

1. 開会
2. 副市長あいさつ
3. 委員委嘱
4. 委員紹介
5. 議題
 - (1) 委員長ならびに副委員長選出
 - (2) 第9期事業計画の位置づけについて
 - (3) 第9期事業計画策定のためのアンケート調査結果について
 - (4) 今後のスケジュールについて
 - (5) その他
6. 閉会

1. 開会

配布資料確認

2. 副市長あいさつ

3. 委員委嘱

委嘱状交付

4. 委員紹介

5. 議題

(1) 委員長ならびに副委員長選出

関西福祉大学の藤原委員を委員長に、高砂市医師会の三木委員を副委員長に選出

(2) 第9期事業計画の位置づけについて

事務局

「(2) 第9期事業計画の位置づけについて」説明

※資料3 第9期計画の基本的な考え方

(質疑応答)

委員

2040年度を目標にして計画を立てるといえることですか。

委員長

2040年を見据えながらいうところですね。

委員

今日のこのアンケートより、もしかしたら悪くなっているかもしれないですね。

委員長

もちろんそれは十分考えられるというのと、そうならないようにこの3年間をしっかりと考えていきましょうというところです。その一つが地域包括ケアというものをどのように深化させいくかというところになってくるのかなど。細かいことはこれ以降のスケジュールのところでも出てくると思いますし、実際、計画の案が出てくると、また具体的に見えてくる場所もあるとは思いますが。

委員

資料3の3ページの一番上の図と下の図とでは、差がありますが、健康寿命はどういうことで決めているのでしょうか。

委員長

一つは、両方に言えるのは双方とも健康寿命は長くなっているということですが、健康寿命の調査はこの二つだけでしたか。

事務局

資料3の3ページの下のほうに「出典」を書いています。二つありますが、一つは国の国民生活基礎調査で算出している健康寿命、もう一つは兵庫県自身が独自で算出している健康寿命です。真ん中のグラフが兵庫県算出のもの、上が国算出のものです。数字が少し違うのは用いている数字の出典が異なるためです。

どちらを見ても健康寿命が延びてきているというところを把握していただければと思います。

委員長

ちなみに、国民生活基礎調査の健康寿命というのは、調査の中の「あなたは、現在、健康上の問題で日常生活に何か影響がありますか」という質問に対して「ない」と回答した人を健康、「ある」と回答した人を「不健康」とそれぞれ定義。年齢別の「健康」「不健康」の割合を求めた上で、生命表というのがあり、それと合わせた上で健康寿命の平均を出しているということだそうです。

(3) 第9期事業計画策定のためのアンケート調査結果について

事務局

「(3) 第9期事業計画策定のためのアンケート調査の結果についてニーズ調査について」、説明
※資料4 高砂市高齢者福祉計画及び高砂市介護保険事業計画(第9期)策定のためのアンケート

副委員長

資料4の30ページの「ケアマネジャーとして望むこと」の「制度運営における保険者判断部分の周知」というのはどういうことでしょうか。

事務局

介護保険サービスを運営するにあたって保険者判断が多くあり、厚労省の通知を基に高砂市がどう判断するかというところを周知してほしいということだと思います。

これについては、ケアマネジャーの方からの質問をまとめており、随時、ホームページなどに掲載し確認していただけるような体制に今後充実させていきたいと考えております。

委員長

恐らく一次統計だけですので、これで何か推測していくというのはなかなか難しいところですが、高砂もやはり移動の問題はすごく大きく、根深く持っているんだということがアンケート結果によく出ているようですね。

委員

資料4の31ページの「要介護者等が在宅で暮らし続けるために特に充実させるべきこと」で、一番要望が多いのが「介護者の負担を軽減する仕組み」となっていますが、具体的にはどのようなことですか。

委員長

恐らく、何かしらの仕組みが要するという感じで、調査でそこまで詳しくは聞いていないですね。

事務局

そのとおりです。介護サービスだけではなく、それ以外の部分も含めた軽減の仕組みというところで、回答されているのではないかと考えております。

委員

資料4の33ページの「訪問型介護相当サービス」、サービスA、Bなどの内容を教えてください。

委員長

総合事業の中で位置づけられているサービス類型です。

事務局

「訪問型介護相当サービス」と「通所型介護相当サービス」については、要支援の方の介護保険という訪問介護と通所介護と同じサービスです。訪問型A、B、C、Dにつきましては、それぞれ緩和した基準によるサービスで、それぞれ市が独自でしているサービスもあります。

事務局

訪問型サービスAは介護保険の給付の基準ではなく、市独自で基準を緩和して、資格を持っていなくても、市が設定した研修を受けることにより訪問介護が行うことができ、利用者も支払う料金が安くなる、サービスの確保等をするための制度です。

サービスBについては、住民主体による支援で、高砂市にいくつかあり、通いの場で、ボランティア主体で要支援の方もそうでない方も利用可能なサービスです。

訪問型サービスC（短期集中予防サービス）については、総合事業として行うサービスですが、短期期限でリハビリ等を行い、介護保険サービスに戻らないよう、また元気な生活を取り戻していただくというサービスです。

訪問型サービスD（移動支援）」については、アンケートで移動支援が一番必要となっていますが、今現在、高砂市の要綱の中では実施しないということになっています。この移動支援に関しては、どこかに行く時に使うタクシーのようなサービスではなく、通いの場のBサービスに行くための送迎を行うなど、さまざまな制限がついています。現在のところ総合事業として実施しないということになっていますが、今後も協議は行っていきます。

委員

資料4の32ページの「介護医療院」とは、要望が29.4%もありますが、どういうものでしょうか。

事務局

介護医療院ですが、要介護1から入所できる施設で、医療度の高い方のための施設です。介護医療院は病院の介護療養病床からの転換が想定されたもので、介護療養病床は今年度末の期限のため、介護療養病床から介護医療院に転換されるというところが多くありますが、高砂市には介護療養病床がなかったため、今のところ、介護医療院がない状況です。

委員

介護医療院は、東播磨管内では稲美町だけにあります。ほかにはまだありません。

資料4の20ページの「(6)健康・医療について」の「自宅に往診してくれる医療提供体制の整備」について、市に充実を希望するとなっていますが、この調査自体が今現在、要支援、要介護の認定を受けていない方へのアンケートになっているため、全体では現在「介助、介護は必要ない」と回答されています。今後、高齢化が進む中で必要になってくるのかなと思いますが、高砂市内の方でかかりつけ医をどれくらい持っているかを把握されているかどうか、もし、データとしてお持ちであれば、教えてください。

事務局

別の部署で調査したことはありますが、かなり前のデータのため、直近は把握していないと思います。

委員

救急でいきなり病院にと行っても、なかなか病院が受けとくたさらないケースが多くなっていると思います。一方で、在宅で過ごされるという方が多くなっているとアンケート結果に出ており、年齢が上がってくるといろいろな病気が出てくるかと思うため、かかりつけ医を持つことが大切だなと思い、質問させていただきました。

(4) 今後のスケジュールについて

事務局

「(4) 今後のスケジュールについて」、説明

※資料5 スケジュール(案)

次回会議予定：8月23日(水)14:00～

(5) その他

委員長

障害福祉計画の方でいよいよ65歳以上の障がい者が顕著になってくるという状況がありますが、高砂の場合、高齢障害の実態など状況的にはどのような感じですか。そこまで喫緊の課題ではないですか。

事務局

本日、その数字は持ち合わせておりません。

委員長

感覚的には、すごく多くなっているということではないということですか。

委員

障がい者については、確かに高齢化が進んでいますが、障がい者自体の人口は横ばいという状況です。高齢の障がい者が増えているというのは、当然、確かなことだとは思いますが、障がい者自体はさほど増えておらず、横ばいの状態です。

委員長

特に、もともと障害のサービスを使っていた方が介護保険に移行して、介護保険の事業所がすごく増えてこ舞になって困るというようなところまではいかないという感じですか。

委員

ただ、障害福祉サービスと介護保険サービスの優先度を考えますと、介護保険サービスが優先ということになります。

委員長

その辺りが事業所側はひやひやしているところかも知れないので。

事務局

先ほど、委員からご質問のありました、かかりつけ医のことですが、アンケート冊子の 91 ページに項目がございましたので、先ほどの回答を訂正させていただきます。

ニーズ調査での「かかりつけ医がありますか」という問に対して、「いる」という回答が 79.5%でした。ちなみに、前は 77.3%でした。訂正いたします。

委員長

これは、全国的にみて高いですか。この数値はどのような感じですか。

事務局

全国結果は無いと思うのですが、関わっている他の自治体で「かかりつけ医がいる」という回答が 90%でした。

委員長

少しそこと比べると低いですね。

事務局

その自治体は、医療施設が多く、療養病床であったり、医療院であったり、そういった医療施設関

係が非常に多いという特徴があります。また、医療連携にも非常に力を入れているということもあり、かかりつけ医が少し多いのではないかと思います。この7割が低いとは思いませんし、関わっている自治体ではだいたいその辺りであるという印象があります。

委員長

高い、低いを競うわけではないのですが、今の話を聞いていただいてもよく分かると思うのですが、この数字自体がすごく意味を持つというよりは、背景にあるものというところですね。だから、医療提供体制も含めて、その背景などと照らし合わせて見ていかないと、ただ数字を上げることだけを目的にしてしまっても良くないというところがきっと出てくると思います。

事務局

支払金口座振替申出書について、説明

委員長

以上をもちまして、「第1回 第9期高砂市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会」を終わりにしたいと思います。

6. 閉会